

大垣市制 100 周年記念事業

～市の魚ハリヨ制定 10 周年記念事業～「トゲウオシンポジウム in おおがき」

■日時：平成 30 年 10 月 25 日（水）14:00 ～ 16:30（受付 13:30 ～）

■場所：スイトピアセンター 学習館 2 階 音楽堂（岐阜県大垣市室本町 5-51）

※大垣駅より徒歩約15分。なお、施設駐車場は有料（普通車1台 200 円）です。

■参加方法等：要事前申込み／申込締切 10 月 10 日（水）／定員 250 名

※E-mail・FAX・郵送のいずれかの方法で、参加 1 名ごとに「氏名（ふりがな）、性別、年齢、所属（会社・団体名等）、住所、連絡先（電話・E-mail・FAX）」を、次の申込先まで連絡してください（参加証が発送されます）。

■申込先：市の魚ハリヨ制定 10 周年記念事業実行委員会事務局（大垣市環境衛生課内）〒503-8601 大垣市丸の内 2-29 / kankyoueiseika@city.ogaki.lg.jp / FAX.0584-81-3347



木曾三川流域エコネット応援団

facebook はじめました!

<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>

応援団の皆さんから提供いただいた、木曾三川流域のイベント情報などを、いち早く配信していきます。

●イベントの告知や開催状況の紹介、そのほか木曾三川流域の環境保全・地域振興に関わる情報について、応援団の皆さんからの投稿もお待ちしております。
●また、e-mail や電話でも、下記宛先まで情報をお寄せいただければ、事務局が木曾三川流域エコネット応援団 facebook ページに掲載します。

●コラム：濃尾平野のケンカモツゴ

木曾川水系（木曾三川流域）に生息する希少な魚類のひとつとして、「ウシモツゴ」が挙げられます（本号の下池ピオトープの記事にも出てきます）。ハリヨなどに比べると知名度は低いかもしれませんが、濃尾平野を中心とした東海地方のごく一部のため池などでみられる、地域色の濃い、とても希少な魚（環境省RL：絶滅危惧種IA類）です。

日本各地でふつうにみられる近縁種のモツゴと比べると、ウシモツゴはやや色黒でずんぐりとしており、縄張り意識が強いために攻撃的で、“ケンカモツゴ”と呼ばれることもあります。そんなケンカっ早いウシモツゴですが、生息地にモツゴが入ってくると、姿を消してしまう傾向があります。

なぜ、ウシモツゴがモツゴに負けてしまうのか、両種を飼育してみると、その主要因は繁殖に関わる部分にあるように思えます。ウシモツゴはモツゴに比べて、卵を産む期間が短く、1回あたりの産卵数が少なく（卵は大きい）、初期成長がゆっくりといった傾向がみられ、これらの特徴からウシモツゴの繁殖能力はモツゴよりもやや弱いことが考えられます。また、モツゴは植物の根や枝へ卵を産みつけるのに対し、ウシモツゴは石の隙間など堅くて大きい基質を好んで産卵します。よって、ため池や農業用水路が管理されなくなった場合などには、水底に泥や落ち葉が積もって石の隙間が目詰まりし、ウシモツゴの産卵には適さない環境になっていくと考えられます。

ケンカが強くても環境の変化には弱い、ウシモツゴの生きざまは、腕っぱいだけでは生き残れない世の中の縮図が透けて見えるようで、思わず応援したくなってしまいます。



ウシモツゴ



モツゴ

ニュース情報を募集しています!

木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会では、木曾三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報をニュースレターにまとめて発信しており、生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、流域のフレッシュな情報を募集しています。下記お問い合わせ先まで情報をお寄せください。（なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。）

木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省木曾川上流河川事務所）とは、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の自治体・河川管理者・有識者によって、平成26年度に設立されました。

本協議会では、木曾三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曾三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曾三川流域生態系ネットワーク」ホームページ（<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/econet/index.html>）

木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会事務局：国土交通省 木曾川上流河川事務所 河川環境課（岐阜県岐阜市忠節町 5-1）

【問い合わせ先（H30事務局窓口）】 cbr-kisojyo@mlit.go.jp / tel 058-251-1321 / fax 058-251-4301

◎本ニュースレターは、木曾三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

猛暑が続いた今年の夏ですが、木曾三川流域では、市民をはじめ研究者や行政の皆さんが協力して、生きもの観察などのさまざまな行事が開催されていました。さらに、一宮市で開催されたイタセンバラ保全を考える市民参加型のシンポジウムでは、大阪市や氷見市からのご参加もあり、木曾三川流域を越えた広域連携が図られていたのが印象的でした。木曾三川流域エコネット応援団でも、より広く情報発信をすすめようと、Facebook ページを開設しましたので、裏面の告知もぜひチェックしてくださいね。

■2018 年 8 月 5 日（日）

木曾川にすむ希少魚イタセンバラ保全を地域の皆さんが考える機会となりました

一宮市尾西歴史民俗資料館シンポジウム「木曾川が育んだ自然と文化～イタセンバラを守る～」

〔愛知県一宮市尾西生涯学習センター〕

一宮市尾西歴史民俗資料館によるシンポジウム「木曾川が育んだ自然と文化～イタセンバラを守る～」が開催され、一宮市民の皆さんなどおよそ 300 名が来場されました。

はじめに、岐阜経済大学・森教授（木曾川水系イタセンバラ保護協議会長）の講演があり、「イタセンバラは地域の宝もの。楽しく・根拠を持って取り組みを進めましょう」と呼びかけられました。その後、イタセンバラ保全を行う高校生らが日ごろの活動や今後のアイデアなどを発表しました。大人気のさかなクンが淡水魚保全について語る記念講演もあり、会場は楽しい雰囲気になっていました。

後半には、木曾川・淀川・氷見市のイタセンバラ生息地における保全活動の現状が研究者や行政関係者から紹介され、淀川での市民団体等による外来魚駆除や、氷見市での小学生による保護啓発など、それぞれ地域のひとびとがイタセンバラ保全に大きな役割を果たしていることがわかりました。

ディスカッションでは、木曾川におけるこれからのイタセンバラ保全について意見交換が行われ、会場参加者からも、過去のイタセンバラ生息情報の提供や、活動に参加したいといった意見・要望が寄せられました。一宮市尾西歴史民俗資料館の方は、「参加して下さった皆さんが地域の宝もの。活動に参加したい人は気軽に声をかけてほしい」とお話されるなど、今後の取り組み発展への気運の高まりを感じた素敵な行事でした。



永山さん（岐阜大学流域圏科学研究センター）の司会進行により、日本各地の事例紹介や木曾川における今後のイタセンバラ保全などについて活発な議論が交わされました



木曾川でイタセンバラの保全活動に取り組み、一宮高校生物部、木曾川高校総合実務部（上写真）から事例発表がありました



研究機関をはじめ、小中高学校や民間企業、行政によるイタセンバラ保全活動を紹介するパネル展示が数多くありました



会場ロビーに展示されていた、かわいなお魚スタンプ（一宮高校生物部作品）。イタセンバラやハリヨのスタンプもありました

■2018年7月21日(土)

木曽川のワンド環境を守るため、外来魚駆除に挑戦!

〔羽島市 木曽川河川敷〕

環境省が実施する木曽川ワンドでの外来魚駆除調査に、地元の羽島市立中央中学校の有志の皆さんが体験参加されました。はじめに、生物多様性の大切さ、木曽川に生息する外来魚の種名や見分け方(体型やようなど)について学んだあと、定置網やもんどり(エサを入れて魚をつかまえるカゴ)などで捕獲した魚のなかから、外来魚を選別して、種類、数、大きさなどを調べました。オオクチバス、ブルーギル、カムルチー、タイリクバラタナゴなどが確認され、特にブルーギルは、さまざまな大きさのものが500尾ほど採捕されたことから、ワンド内で繁殖しているものと考えられました。

また、外来魚を解剖して、何を食べているか調べたところ、ここでは、ブルーギルは水生昆虫を、オオクチバスは小さなエビ類を食べていることがわかりました。

猛暑のなかでしたが、参加した生徒からは、「外来種以外にも、さまざまな魚類がいることが分かった」、「魚の解剖が体験できてよかった(ちょっと気持ち悪かったけど)」、「こういう仕事をしている人がいるんだなと思った」といった感想が聞かれました。



ブルーギルがたくさん採れました



木曽川の自然や外来魚の見分け方について学びました。

■2018年8月4日(土)〔愛知県一宮市起 木曽川河川敷〕

暑〜いミズベに集まった勇者たちが、木曽川で大冒険(魚とりや川下りなど)しました! ミズベリング138「夏休み集まれ!木曽川ミズベの勇者たち2018」

今年もミズベリング138(いちのみや)の取り組みのひとつとして、夏の木曽川を冒険する「夏休み集まれ!木曽川ミズベの勇者たち2018」が開催され、一宮市の親子約20名が魚とりや川下りなどを体験しました。一宮市を流れる木曽川の自然環境について学習したあとは、タモ網を手に川に入って魚をとり、どんな魚がとれたか調べました。この調査体験では、コイ、タイリクバラタナゴ、ツチフキ、ゼゼラ、ブルーギルなど13種の魚類やスジエビ、アメリカザリガニなどを記録しました。実際の調査でとれたニホンウナギも展示され、かわいらしい(おいしそう?)見た目からか、参加者の皆さんの人気になっていました。

お昼休憩後のEポートによる川下りでは、ボートを漕いだり、川に飛び込んで泳いだり、子どもたちは、木曽川を直接感じる貴重な体験を夢中になって楽しんでいました(専門家和安全管理のうえ水難救助等について学びながら実施しています)。ほかにも、思い出のピンバッチをつくったりと盛りだくさんの1日で、まさに木曽川の大冒険でした。参加者の方からは「ふだん見るだけの木曽川で魚とりや川下りができて、とても楽しかった」といった感想が聞かれました。



この日はたいへんな暑さで、ワンド水際の水温も高く、ざんねんながら、あまり魚がとれませんでした。スジエビや貝類がおもな収穫でした



はじめにクイズも交えて木曽川について学習。木曽川は日本で何番目に長い? (答えはこのページの左下)



大きな木曽川に浮かびながら川面を眺めるなんて、めったにできない、すてきな夏の思い出ですね

■2018年8月4日(土)

「水田の生きもの調べ」で農地の生物多様性を楽しく学びました

〔岐阜県海津市 下池ビオトープ〕

岐阜県海津市南濃町と養老町の境にある下池ビオトープにおいて、牧田川や揖斐川・津屋川に囲まれたこの地区に残された貴重な淡水魚などを多くの人たちに知ってもらいたいという願いから、下池地域農地・水・環境保全管理組合、東海タナゴ研究会、および岐阜県西濃農林事務所により、生きもの観察会が行われました。

たいへん暑いなかで開催でしたが、地元の子ども達を中心として約30名が参加し、下池ビオトープおよび周辺の水路などで多くの生きものを観察しました。下池地区のいくつかの田んぼでは、水田魚道を整備し、水路と水田の間を生きものが行き来できるようにしており、その効果で生きものが増えていることが確認されています。

この日は、ミナミメダカ、ドジョウ、タイリクバラタナゴ、トノサマガエル、ウシガエル、コオイムシなどに混じり、希少なウシモツゴなども確認されました。生きものについては、東海タナゴ研究会の北島淳也さんが生態の特徴などについて解説してくださいました。コオイムシはお父さんががんばって子育てをすることなど、生きものの楽しいお話に子ども達も興味深く聞き入っていました。

また、三重大学生生物資源学研究所の加治佐隆光教授や研究生の方が参加され、講評をくださいました。

観察会の最後には、地元のお米で作ったおにぎりが振る舞われ、子どもたちの貴重な夏の体験になりました。



田んぼと生きもの暮らしの紙芝居



コオイムシ



東海タナゴ研究会の北島さんによる生き物解説



水田魚道と水路で生き物捕る子どもたち